

【抜き出し問題での正解の推定字数】

令和7年(2025年)4月16日改訂

■抜き出し問題

・「抜き出し問題(書き抜き問題)」は、「設問の要求を正しく把握し、正しく方向づけて考え、要求に合致する箇所を正確に判断し、過不足なく正しく書き写す」問題です。

・抜き出す箇所の字数条件については、例えば①「20字以内で」と字数幅を自分で判断する必要のある場合や、②「15字以上20字以内で」のように一定幅が提示される場合、また、③「7字ちょうどで」のように完全に字数を限定される場合等があります。

・特に、①の「○字以内で」という条件での抜き出し問題を指導で扱う際に、生徒に「正解の文字数は何文字以上あると推定されるか？」と問うと、大抵(たいてい)の場合、「『最低でも8割以上』と教わった」と答えます。この「指定字数の8割以上」という基準は本当に正しいのでしょうか。実際には何文字を基準とすればよいのでしょうか。

■作問基準

・「○字以内で」のような条件が設定されている問題について、これまでの経験をあらためて振り返ってみてください。「20字以内で」、「25字以内で」、「30字以内で」、「35字以内で」というように、そのほとんどがきりのよい字数であったことに思い当たります。

・作問者が正解と決定した箇所の字数が仮に「10字」である場合、作問者によって、あるいはその時々によって字数条件を変えて「15字以内で」と設定したり、「10字以内で」と設定したりすれば、解答者側は一定しない判断基準に困惑するだけでなく、学習上も大変不都合です。

・そこで、作問者側は、「10字以内で、という条件下では正解の字数は6字以上」、「15字以内であれば11字以上」、「20字以内であれば16字以上」、「50字以内であれば46字以上」というように、一定の字数範囲を暗黙(あんもく)に決め、これを一つの「作問基準」としています。

■正解の推定字数

・以上により、『正解の推定字数』は、『マイナス4字以内(指定字数から4字を引いた字数以内)』、または、『指定字数を含めて計5字以内』となり、これを今後の判断基準としてください。

・受験生の多くが認識している「正解の推定字数は8割以上」という基準で判断しようとすると、例えば、「25字以内という条件下では20字あれば正解」、「30字の場合は24字、35字では28字、50字では40字、70字では56字あれば正解」のように誤って判断してしまう恐れがあります。「正解の推定字数は8割以上」という基準は、「20字以内で」という指定字数を超える字数条件では通用しません。

■抜き出し問題での『正解の推定字数』は、『マイナス4字以内！(指定字数から4字を引いた字数以内)』、または、『指定字数を含めて計5字以内』！

・「正解の推定字数は、『マイナス4字以内』、あるいは、『指定字数を加えて計5字以内』と判断基準を決めておけば、その基準に合わない解答範囲を明かな誤りと判断できます。

・ただし、この字数基準は絶対的なものではなく、ごく希(まれ)に基準を外れる場合があります。このような問題では、受験生が「設問の要求」に対して、各種情報に基づき、解答箇所を「ここからここまで」と正確に、かつ客観的に判断する力があるかどうかを試されていると考えてよいでしょう。

■前提事項に注意 ※基本的な論理②『暗黙の前提』(p.4)参照！

・記述問題において、例えば、設問で「太郎の気持ちを説明しなさい」と求められているのなら、太郎を「暗黙の前提」として説明すればよい^①のだから、文脈上必要な場合を除き、あらためて「太郎は…、太郎は…」のように何度も書き重ねる必要はない。「前提事項の重複記入」に注意が向かないと、必然、制限字数を圧迫して解答要素をはじき出してしまふ。

※「抜き出し問題」においてもまた、設問や本文における「前提事項」に注意が向かないと、『ここから、ここまで』という、要求に正確に対応した範囲特定を誤る恐れがあるので注意しよう。